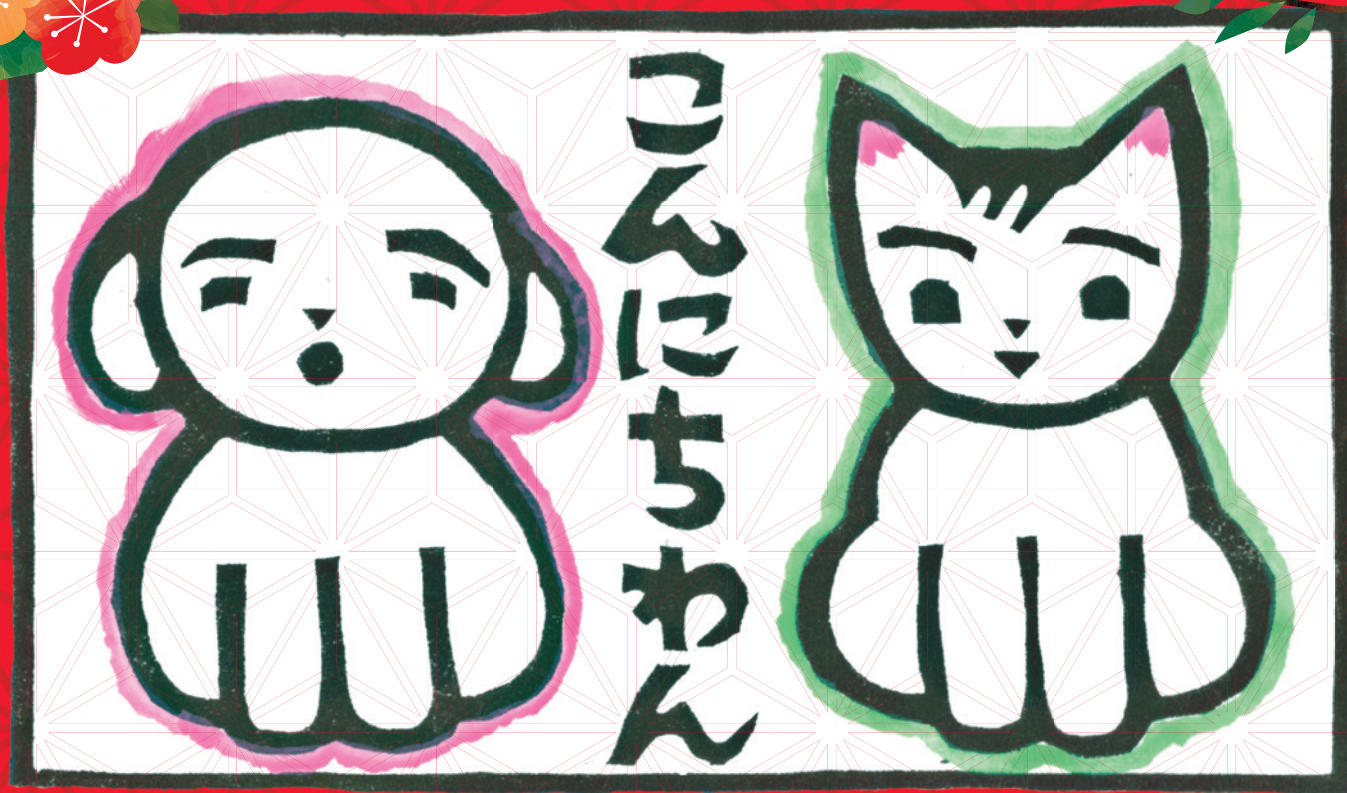


ららばい、通信

Lullaby News

2024年
新春号

令和六年
新年あけまして
おめでとうございます



今年がHappyな年でありますように

画／大野隆司

[目 次]

- 特集「<古い>の力を考える」 三田村 慶春 …2
- COLUMN／孫の話 西館 好子 …4
- 母は焚き木です 国見 修二 …5
- 特集
お母さんのための 子守唄教室 第3回 西館 好子 …6
- 連載
ちようちちうち あわわ わらべうた 童謡 詞華抄5 尾原 昭夫 …8
- 連載 子ども虐待は、今
「埼玉県虐待禁止条例」改正案の波紋 川崎 二三彦 …12
- 投稿
この国つぶしてはならないよね
ジジババだって一言いいたいよ …14
- 連載 日本子守唄紀行
「優女（やしょうめ）」（京都市） 鵜野 祐介 …16
- 連載
英気を養う「二者物語」 帯津 良一 …18
- 連載 直島便り
皆で守る島の祭り 山根 光恵 …20
- 活動報告 …21
- 寄付者名簿

唄の
ページ

ポーランドの子守歌

訳：つかだみちこ

会員様からの投稿子守唄

「二匹の子猫」

二匹の子猫
灰色と茶色の子猫
なんにもしようとはしない
子供が遊べば
その時は一緒に遊んでくれる
三匹目の三毛猫だけが
自分のねぐらにのそのそと
歩いてゆく
子供と一緒にミルクを
飲むために

「空色の子守歌」

お眠り 坊や
忘れな草をみてごらん
小さなはなびらを
もう閉じている
お伽話をきくために
蹄の形したベッドに
お伽話を招くがよい
銀の冠を頭にのせた
サファイアの子馬も

「ねえねえ どうして」

雪よ雪
どうして降るのを
やめてしまったの
星よ星
なにを見ている 遠くから
草原の 大地よ
なにを まどろむ 青い 草原で
雲よ 雲
なにを包む 山の上で
ねえねえ 暗闇さん
どうやって 降りてくるの
夜よ 夜
どうして そんなにゆっくり歩いてくるの
夢よ 夢
すべてはお前の頭にうかんできたことだ

【つかだみちこ】 東京都出身。作家、エッセイスト、ポーランド文学翻訳家。1969年9月から75年6月まで、ワルシャワ大学にて現代ポーランド文学を専攻。

「あばばのば」

一、あばばのば あばばのば
かわい い 赤ちゃん お元気ですか
あばばのば あばばのば
にこにこ 赤ちゃん ご機嫌です
ゆりかご ゆらゆら 揺らし
お手を 握って バンザイ
お顔を つけて チュチュチュ
抱っこして お空へ 高い高い
うれしいね 楽しいね
大事な 赤ちゃん

二、あばばのば あばばのば
お寝んね 赤ちゃん お元気ですか
あばばのば あばばのば
お目を 開けて ご機嫌です
おっぱい いっぱい 飲んで
お手を 叩いて バンザイ
おちよち 歩いて 一二三
あんよは お上手 早く早く
うれしいね 楽しいね
大事な 赤ちゃん

お正月を祝う

日本子守唄協会 理事長 西館好子

令和6年
ららばい通信 新春号を
お手元にお届けさせていただきます。

辰年の幕開けです。

今年は天高く昇る龍、成功と成果が期待できるというのですが、やはり波乱な年となるかもしれません。これほど情報過多な毎日では、ニュースや話題を追うだけで疲れてしまい、心が休まることもありません。平和、平安などという気持ちを持つことすら薄らいでいきます。どうもコロナ以来、時間の経つのが早い気がしてなりません。

下仁田町に作った『女性村 ねぎぼうず』は、元が小学校という学びの場、できるだけ子どもの頃に帰り、素直な心で憩うことのできる「居場所」作りに取り組みしました。

暮れに出来上がった元下仁田町教育長 里見哲夫さんの資料展示室は、普通の展示とは違い、自然の山や森にある木や木の実、草など、手に取って遊べる空間となっています。

子どもたちは目の色を変えて「どんぐり坊や」の制作をしています。窓からは紅葉した森、「ものがたりやま」の頂も見えます。トンボの群れのように飛んでいるとどう虫を初めて見ました。

自然は時間を忘れる空間だと思います。私たちが急がせているのは、無責任な情報とそれに振り回されている私たち自身なのかもしれません。もつとゆつくり暮らしませんか。

昔こんな歌がありましたね、「そんなに急いでどこへ行く」。
改めてのんびり行きましょう。

日本子守唄協会

理事長

西館好子

「正月の唄」

年の初めのためしとて
終わりなき世のめでたさを
松竹立てて門ごとに
祝う今日こそめでたけれ

初日の光さしいでて
四方（よも）に輝く今朝の空
君がみかげに比（たぐ）えつつ
仰ぎみるこそ尊（とう）とけれ

明治になり、何でも外国のものが礼賛される風潮の中、やはり歴史と神々に支えられている日本を忘れる人はいませんでした。

祭事は国の根幹に関わるもの、時の文部大臣 井上馨は、国の祀りとを定着、いかに国力に反映させるかを考えていたのでしょうか。「正月の唄」を出雲大社第八十代宮司 千家尊福（せんけたかとみ）に依頼

しました。作曲を上真行（うえさねみち）、雅楽の専門家です。

年の初めのトップバッターとしてのお正月、農耕民族としてはまずその年の豊穡を願い、そして国の繁栄を願うというごく自然な中に、歌いやすく心に入りやすい曲ができました。「正」は始まる、改まる、何もかもが新しくなるという意味です。

「寝正月」「お年玉」「痛飲」しか思い浮かばない人が多くなってきた昨今、日本の美しい風習は忘れたいありませんね。



特集

絵本&カフェ《おばあさん知恵袋》主宰
NPO法人 語り手たちの会 理事

三田村 慶春



「老い」の力を考える

はじめに

年が明けて2024年を迎えれば、私自身も後期高齢者の仲間入りすることになるというものの、今に至って、いさかも「老い」を認知し得ていないとは、どういうことなのか、と、時折、思うことがあります。

それは、日頃から、年若い青年、子どもたちと言葉を交し合う機会の多い仕事上からなのか、あるいは、ずっと一人身で暮らしてきたがゆえ、自身が年の重ね方を間違えてきてしまったのか、と自問自答することさえあるのです。

この稿では、人として生きる以上、誰にも避け得なく迎えなければならぬ「老い」とは何か、また「老い」と向き合いつつ、どのように人生の終末期の時を過ごすことができるのか、その力はどのように獲得できるのか、を考える機会としてみたいと思います。

しかしながら、人には人それぞれの人生の歩んできた道がありますので、その結果としての「老い」方にも、それぞれの姿、形があります。私自身の老い方が、どこまで皆さんに、ご理解いただけるか、不安が伴うのですが、これも一つの老い方と、提案させていただければと、筆を執りました。

老いと成長の記憶

老いとは、身体的機能の衰えと、精神的気力の衰えと、この2つの働きが絡み合い、まるで人生の高みから螺旋階段を、一步一步下りてゆくようなものではないかと思っています。ある人は、その階段の先にある暗い底に待っている絶望の淵に、眼を凝らすのでしょうし、ある人は逆に、たった今下りてきた階段で、ふと足を止め、まばゆい輝きに満ちた過去を振り返りながら嘆息をつき、思い直したように、後戻りのできない人生の階段の底へと、一步一步と、足を踏み出すのでしよう。

この身体的機能の衰えには、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、発語等の五感を司る器官の機能、筋力、骨格の構造、内臓各部の機能の衰えがあげられます。他方、精神的気力の衰えには、能発達機能の衰えが関わってきます。身体的機能の衰えは、個々の生活の仕方、日頃の努力、現代の医療技術の発達で、その深まる速度を抑制することは可能ですが、精神的気力の衰えには、能の発達機能が関わってきますので、その衰えを人為的に抑えることは容易なことではありません。

なぜならば、能の発達機能は、人の生涯を通して

老いてなお、人を生き活きとさせる力は、成長期に感じた、他者との触れ合い、街や祭りの賑わい、小川や草っ原の匂いなどの記憶の中に隠されているはずです。

「大人育て」ということ

少年、少女期の記憶が「老い」方を形づくと述べました。では、その記憶をどのようにして蘇らせることが可能なのか、次に話を進めましょう。

人は、ともすれば、自分の歩いてきた道を、あるいは今の自分の姿を肯定的に捉え、自分の存在を他者よりも優位に捉えたいと考えがちです。それは親子、夫婦の間でも、学校での教師と児童・生徒の間でも、更に就業時の上司と部下、先輩と後輩の間において、また男女間においてさえもです。これは日本の封建制度社会から連綿と続く「上意下達」の国民意識が、現代の社会においても、改められることなく無意識のうちに、伝承されているからなのでしょう。

その結果、強い力を持つ者の、立場の弱い者を蔑んだり、貶める言葉の横行が目に見えらるほどです。人を命ある人格として見ず、肩書や生活相で人を判断することが、自分にとって居心地を楽にしてくれるからなのです。これは自己保身以外の何ものでもありません。



画:永瀬嘉平

このような思考方法を繰り返した結果、高齢期を迎えて一人よがりの意見を強弁したり、孤立する「老い」たちの、なんと多いことでしょうか。

最近でこそ、バワハラ、モラハラと、訴えられる機会も見受けられる時代を迎えています。多様な考えを持つ人で社会は構成されているのだと、自らが気づくべきなのです。

さて、この国の未来社会を担う子どもたちへの、政府の施策や民間企業・団体の、子どもを対象とした「子育て」事業は、活発に取り組まれてきています。まだ充分ではないとしつつも、それは少子化に伴う、近い将来の我が国の国力に思いを馳せれば、少しばかりは安堵もします。

しかし、私は、その子どもたちを育む大人たちが、家庭を営む中で、保育や教育の現場、あるいは就業時において、子どもたちの、青少年たちの描く夢や未来像の芽を、摘み取っているのではないかと懸念するのです。皆が同じような、横に並べの子育てや教育環境で、今、息継ぎができない子どもたちが、私の周りでも多く見受けられます。

日常生活、学業、就業に至るまで、投資費用対効果として、数値化された価値が幅を効かせ、一人ひとりの個の人格をないがしろにしていることが、子どもたちを生き辛くさせているのです。その結果、家からの逃避行、不登校、精神的なダメージに迷う、子どもや青年の存在を無視し得なくなってきたいます。

子どもたちには、人として伸びやかな未来があることを、伝えてくれる大人たちが必要なのです。大人たち自らが、自分の日々の振る舞いを顧みること、老いてなお、自分を育てる、また大人同士が互いに育て合う後ろ姿を子どもたちが見て、この街、この国を、

の幼少期、学齢期、就業期における家庭、幼育施設、学校、就業施設等の社会環境との関係性の過程で成長し、形づくられてきているからです。

「体力が落ちた」「もう、この年だから」と、身体的機能の衰えを甘んじて受け入れ、精神的気力を失う人がいます。その反面、「若い者には負けられない」「まだまだ、やれるはず」と、身体的機能の衰えを看過して、衰えた機能の限界を超えようと無謀なチャレンジに挑む人もいます。このことから、身体的機能と脳の発達機能とが、本来ならばバランスを保って、私たちの身体と精神を安全に司っているにも関わらず、そのことを認知し得えずに「老い」を甘受するのか、逆に無視さえして、「老い」に抗っているように見えることがあります。

「老い」を、自分の辿るべき本来の道として見据え、日々、老いてゆく自分と率直に向き合う機会を持つことが、老いてなお自分を成長させてくれるのではないのでしょうか。

「老いてゆく自分と率直に向き合う」、その機会はどういうにして獲得できるのでしょうか。そのヒントは、その人の成長の過程に隠されていると考えます。脳の発達機能は、平均して20歳までに整えられ、その後は縮減の歩みへと進むと言われています。であれば、人の脳は、幼少期、学齢期の大半を経て形成されていくのでしよう。

家庭における親子、兄弟姉妹の関係、幼少期の遊び仲間や保育に携わる保育士、学齢期の教師や仲間など、ひと一人の成長には、多くの人々が関わる社会環境が存在します。「老い」の精神的な背景には、この時代に形成された脳の記憶が蘇り、人の「老い」方に深く影響するのではないのでしょうか。

かつて「日本子守歌協会」の理事長、西館好子氏とお話する機会があった折、氏の「私は浅草の街で育てられたの」と仰った言葉が今も耳に残っています。

自分たちの「ふるさと」として大事に思う。これが将来の国力として実るのではないのでしょうか。今、大人に必要なことは、名譽、経済力、権威に依ることのない「大人育て」なのです。

ファンタジーを伝える

私の少年期には、中江藤樹、吉田松陰と良寛禪師に憧れ、それは今も、心の師として続いております。その一人、良寛禪師は、寺を持たず、素朴な庵に暮らしつつ、日々、町や村の人々を訪ね、語り合いながら、73歳でこの世を去るまで、人の生き方を説き続けたことです。また近隣の子どもたちへの限りない愛情は、残した和歌からも忍ばれるものです。

「老い」の時を過ごすことは、人本来の生き方を問い直し、次の世代を担う子ども、少年・少女たちに、今日一日、この一年、そして未来への生きる夢と希望を抱かせる、その力を大人自らが獲得すること、に尽きると考えています。

私は、人前で主に昔話を語ります。2週間に一度、保育園児たちにも、語る活動が続いています。園児たちは、昔話を聞きながら、眼には見えない世界を想像します。主人公や登場する動物たちに期待をしたり、怒ったり、がっかりしたりと、様々な表情で応えてくれます。

子どもたちは、お話を耳を傾けることで、普段は胸の内に収めている、様々な感情を露わにします。幼い頃に、五感を働かせて身の周りの世界に関心をもち、想像し、心のあるままに言葉に換える行為を繰り返すことは、必ず心を豊かに育てることに繋がるでしょう。

大人もまた、その心を伝える力を手につくことができれば、「老い」もまた楽しや、です。

「孫の話」

日本子守唄協会理事長 西館好子

お昼のワイドショー収録前、楽屋でのことでした。間もなく生まれてくる初孫の話題を出した瞬間、

「孫に気を取られていては仕事になりませんよ」

「孫と言ったって所詮は夫婦のもの、ジジババは都合よく使われるだけよ」

「人生の終止符を孫で終わらせるなんてごめんよ」

「甘い甘い」

女権運動の女性たちに囲まれている中だったので仕方ないことでしたが、総スカンでした。

あの時生まれた孫はすでに三十三歳。あんなに強気だった女性たちの孫もテレビに芝居にと大活躍。当人たちともすっかり疎遠になった今なら孫談議ができるかも知れませんがね。

孫がいなかったら私は生きていたのだろうか、ふとそのようなことを考えます。

初孫の誕生は私の離婚直後で、当時の家族はみな右往左往の中、混乱状態でした。両親の突然の離婚は娘たちに大きな傷を負わせました。

母親である私も、父親である夫も共に再婚しました。まだ自立できていなかった娘たちは、世間という荒波に放り出されました。次女は知り合った男性とデキ婚の末に家庭を築きました。むろん私たち両親は見守るしかありませんでした。そして無事に初孫の女の子が誕生し、私と配偶者は本当に可愛がりました。

新しい配偶者は当時まだ四十代。自分の娘でもないのに呼び名は「じじ」です。血は繋がっていません、生まれた時から一緒とあれば可愛さはひとしおだったようです。

休日のほとんどを孫と過ごしました。この頃の思い出は、公園と離乳食に尽きます。当時の仕事のつらさは覚えていないのに、長女、三女に生まれた子供たち、合わせて四人の孫に恵まれた私の思い出は、ほぼ「孫」が中心です。誰が何を言おうと、私にとつての生きがいは孫だったのです。死んだらどんなに楽だろうと思う日々もありましたが、そんな時に孫の顔が浮かび、悲観的な考えをすぐに打ち消してくれました。

私と先の夫 井上ひさしさんは、私が20歳、井上さんが26歳の時、出会って一週間後には結婚していました。若さの無謀さもありましたが、戦後の日本という中で、作家になりたいという彼の情熱と希望が「時代を射る」といった同志愛を掻き立てていった末の事でもありました。本当に必死でした。金なし、家無し、仕事なし。それなのに、あんなにキラキラしていた時代はありませんでした。

物書きに徹しての家庭づくりでした。私は主婦らしいことを全くしませんでした。料理をしている時間があれば、古本屋か図書館に行く。

そうでなければ「ネタ探し」…といった中で子供が生まれました。

「絶対に女の子でなくてはならない」と思い込んでいた井上さん、長女が生まれた時は狂喜していました。二番目がまた女の子で、生まれた時から彼のベットのようでした。三番目の時は既に大変な流行作家になっていたため、三女を可愛がる時間は全くありませんでした。

私たち夫婦は「育児をした」とは口が裂けても言えません。家が仕事場であり、戦場であり、編集者や新聞社の方たちのたまり場であり、旅館であり、下宿場でもありました。娘たちの子育て、教育をすべて私の両親に託してしまったのです。

今思えば異常でしたが、異常が特権という中で、私たちはなるべくして「離婚」に至ったのだと自戒しています。以後、心の中にはいつも娘たちへの贖罪がついて回りました。

戦後に子供だった私たち世代は、「子供に苦労させたくない、ほしいものを買えない思いをさせたくない」の一心で馬車馬のように働きました。その反面、ともに泣き、ともに寄り添い成長するという肝心な親子の関係はおざなりになっていたのだと思います。

孫の姿が娘たちと重なります。言い訳になりますが、娘たちにできなかったことを埋めるかのように、孫に愛情を注いでいるのです。何がなくても孫がいる。未来につながる私の孫が。生きがいが娘たちから、孫に移行していったのです。その存在がある限り、これからもう一つに耐えられると信じています。

INFORMATION

母は焚き木です

詩人 国見修二



○母は道草です

レンゲ畠の道草です

編んだ首飾りがとぐろを巻いて春を見つめています

○母は柱の傷です

節句の子どもの成長を見守る柱の傷です

○母はあなたの中にいます

慈悲心を持って

今も五感に呼びかけています

このような詩が次々と浮かんできました。多くの詩の中から、自分の母を発見していただけたらと思います。

3月3日は、松永伍一先生の命日にあたります。日本子守唄協会の理事長でおられる西館好子

さんにとつても私にとつても、松永先生は師と呼べる存在です。松永先生は日本子守唄協会の初代会長をされました。子守唄の研究をされていたわけですから、当然、そこには母と子の関係もテーマになっていました。その命日に、「(母)をめぐって」をテーマにした西館さんとの対談をさせていただきます。ことになりました。ご承知のように、西館さんは親

「母は焚き木です」展開催

【日時】2024年2月15日(木)～3月24日(日)まで
【会場】新潟市砂丘館(主催)新潟市西大畑
【電話】025-222-2676

【内容】

①詩の展示

②〈母〉をテーマにした、また『母守唄 母は焚き木です』の言葉に共振する画・写真・陶芸などの展示

松永伍一、相澤弘邦、石山与五栄門、梅田恭子、漆山昌志、木下晋、栗田宏、斎藤應志、佐藤公平、佐藤清三郎、佐藤哲三、七里知子、しんぞう、戸川淳子、蓮池もも、峰村リツ子、横山蒼鳳、渡辺隆など(予定)
※来館者の方にも「母は」です」の三行詩を作っていただき展示します。(希望者のみ)

寒い雪の新潟に、是非足をお運びくださいませ。

【イベント】2024年3月3日(日)
午後14時～15時30分

①詩集『母守唄 母は焚き木です』と

『母は焚き木です』展について」

大倉 宏(砂丘館館長のお話

②対談 テーマ〈母〉をめぐって」

西館好子(日本子守唄協会理事長)

国見修二(詩人)

【参加料】500円 定員40名

お母さんのための 子守唄教室

第3回

日本子守唄協会理事長 西館 好子

10. 子守唄はなぜ現在必要なのか

親子のありようが問われているからです。とにかく大変な世の中です。

殺伐とした毎日、殺人や凶悪事件や虐待の報道に触れるたび、何が原因なのかを考えますが、その多くは親子のありようにかかっているようです。

自分の命が大切なように、人の命も大切です。命の大切さを知るための基本は子育ての中にあり、さまざまな恐ろしい事件は親子関係に起因しているといっても過言ではありません。子育てこそ実は伝承文化なのです。長い年月の中で、人の経験と歴史を持って受け継がれてきたものだということを、今の私たちは忘れてしまっています。

誰もが父と母から生まれてきました。その父と母も、お互いの父と母から生まれてきました。遺伝学の先生からお伺いしたところ、一人の人の中にある遺伝子は1600人分だということはありませんか。

なんだか、一人で生まれてきたとは思われないまでも、私の人生は私自信の力で決められる

と考えていたことが、ずいぶん思い上がりであつたという気がしてきます。

現在、私たちは命に関してどんな敬虔な気持ちを持っているのか、はなはだ心細い気がします。たとえば、死生観といったもののへ感覚は鈍いかもしれません。

「死」が日常の暮しの中にあるということもありません。

老いる、病む、死すといった、人間の一生について回る避けられない事実をしつかり見る場がなくなってきました。それらは家庭の中に持ち込むべきではないと考える風潮さえあります。老いても、病んでも、死にあたつても、専門の方々の施設や手を煩わせる中で日常は営まれているのです。

病気で寝ている老人を見るのは、子どもだった私にとって、とても怖いことでした。

子ども時代、死はもっと恐ろしかった記憶がありませんか。

しかし、人はやがて老いて死んでいくものだを知ったとき、人生の本当の姿と出会ったようで、妙に感動し、大人になったと感じたものです。

12. 同じことを繰り返すのは何か意味があるのでしょうか

ねんねんよ ねんねんよ…おころりよ おころりよ…

などは誰もがうたえますし、繰り返し繰り返し使われているものです。そして、その繰り返しをうたうだけでも立派な子守唄です。

お母さんの愛のリズムだからです。

この、ねんねんということばの語源は、お念仏の、念念…からきているようです。こじつければ、眠ることを念じているところからうたわれはじめたのでしょうか。つまり子守唄は、お念仏とも共通点を持っていることになります。

おころりよも、一説には「ころり」と一瞬に眠ってほしいという願いの表れからきているといふのです。

ねんねん おころり おころりよ
は、一生の中でのさまざまな願い事の末に、ころりと眠るように死んでいきたいという人間の願望があり、それを繰り返し繰り返し、赤ちゃんにうたっていることとなるのでしょうか。まさに「刷り込み」の極地というわけです。

同じリズムで繰り返し返されると、それはまるで海の波のように悠久の心地よさを与えてくれます。この繰り返しがあるからこそ、赤ちゃんはだんだんに目を細めていくのです。

ねんねんよおころりよ おうちのりえちゃんねんねんよ

といった簡単明瞭なことの繰り返しですが、実は大きな意味をもち、言葉を話し始めれば真っ先に自分の名前だけは言えるようになるのです。お

老人は、小さな孫に「子守唄」や「わらべうた」を良くうたってくれた時代があつたはずですが、その人との別れに当たり、無機質な病院の冷たく硬いベッドは、あまりに儀礼的過ぎませんか。

死は、子どもにとって大きな意味を持ちます。人がやがては死ぬものであり、人生は幕が下りるもののだと実感したとき、取り返しのつかない事もあるのだと知ることができます。

泣く以外に心を落ち着かせてくれるものはありません。病や死に立会うことは、子どもにとって、人生の教科書の一ページかもしれません。生きることの深さに出会う入口のようです。

自分のためにうたってくれた唄を記憶していることは、子どもにとって、生涯の宝物となるはずです。



11. 子守唄をうたえば良い子が育つのですか

「はい」育ちます。

うたいうたわれる、という関係が親子にとって最大のコミュニケーションの良薬となります。

赤ちゃんにとっては、子守唄を聞くことは脳の活性化を助け、情緒を落ち着かせる効能があります。

母さんの唄の中でしっかり認識と訓練をしているということですが。

もっともこの繰り返しと言葉は土地によって異なっています。

13. 子守唄は永遠の故郷です

なぜならば最近になって、赤ちゃんはおなかにいるときのことを覚えていてということが、専門家の研究で立証されたからです。

もっとも身近に感じる音は、母親の脈拍、呼吸の音、ゴロゴロとなる腸の音。それらは母親の音であると同時に、自分自身と繋がっている音で、実に心地よいもののなのです。

又、お母さんのおなかを通して外の音がどう入ってくるかという実験では、七か月までの反応は乏しいものの八か月から九か月では胎児の反応は急速に発達し、妊娠末期には、外からの音は自分の耳で聞き、独自の動きや反応を見せるということが解ってきました。

この時期音楽を聴くと、母親が好きな曲では、胎児の脈拍は活性化するので。

いわば母親の精神状態を受け継いで子どもは育っているということです。

おなかの中で聞く音はひとり一人まちまちで、その子にとっての永遠の故郷の風景です。誰もが同じ音を聞いているということはないのです。外国ではどんな風に捉えているのでしょうか。

次号につづく



ちよづちちよづち

あわわ

わらべうた 童謡 詞華抄5

わらべうた研究家 尾原昭夫

狂言 薬水（養老水）

平安時代のへ猿楽に淵源をもち、室町時代に成立した「おかし」「笑い」の芸能であるへ狂言には、当時の庶民生活を取り入れ脚色したものも多く、そのなかに子どもの遊びや唄を題材とするものもあって、わらべうた・童謡の記録、また子どもの文化史のうえでも貴重なものとして見逃すことができない。そのうちには何とへ赤ちゃんのあそびとうたへまでも諸処に出てくるので、まずはそこに注目してみたい。

おなじみの狂言の演目のなかに「薬水」または「養老水」というのがある。百歳を越える老人が、「養老の水」で若返って赤ん坊に変身するという、なんともほほえましくめでたい狂言である。

「あらずじ」 百歳を越すほどの高齢のおじいさんの足腰が弱ってきたので、心やさしい孫の兄弟が、薬水として評判のへ養老の滝へ連れていき、その水を飲ませる。効果てきめん、おじいさんはどんどん若返って、とうとう赤ん坊になるという話。そこで赤ん坊になったおじいさんが、いろいろと赤ちゃんあそびを演じる。

次にその大蔵流の原典から赤ちゃんあそびの唄の部分抽出する。

注「へ」は唄の印、「く」は繰り返しの「く」の字点、カッコ内は振り仮名・振り漢字。

〔大蔵流のあそび唄の部分〕

二人はやし物 へおうぢご（祖父御）のく、ちご（児）になった見ま

含むが、それはそれとしてわらべうたの記録として貴重である。

それぞれの幼なあそびについての説明は、後でまとめることにして、次の演目に移ろう。



子盗人(こぬすびと)『能狂言絵巻』
近世風俗図巻3 毎日新聞社刊より

子盗人

「あらずじ」 お金持ちの家の乳母（うば）が、赤ん坊が良く寝ているので座敷に寝かせておき、ちよつとお茶の間へお茶を飲みに行く。そこへ博打（ばくち）でさんざん負けて金をなくし、女たちの衣類までも質に入れて困り果てた者が、何なりと盗んで、それを元手にまた博打で取り戻そうと羽振りの良い家に忍び込む。そこには茶入れ、

ひなく。（祖父）へめくらこや、めくらこやくく。

（孫）へおうぢごのくちごになったみまひな。（祖父）へてうちくくや、あわ、やあわ、

（孫）へおうぢごのくちごになった見まひな。（祖父）へひちほくほ、ほふほほ、

（孫）へおうぢごのく児（ちご）になった見まひな。

大蔵流「薬水」大蔵八右衛門虎清本（正保三年1646）より

次は、同じ演目の、鷺流「養老水」でのあそび唄の部分である。

〔鷺流のあそび唄の部分〕

「手打くアハ、ト、ノ目ヤく。」

「頭（ツムリ）テンくヤ。飯頭（カブリ）くカブリヤ。

「鬼ノコヌマニ大豆ヒラウテ食（クラ）フヨく。」「鬼ノ留守ニ洗濯セウヨく。」

「鬼ノ血ハ一皿（ヒトサラ）ニ（フタ）皿三（ミ）皿四（ヨ）皿九（コ）皿十（ト）皿。」

「蝶タトマレ」「蜻蜓（ヤンマ）返せ、蜻蜓（トンホ）トマレ。」

「足ノ涼（ツメタイ）ニ草履買（カフ）テ給（タモ）レく。」

ここには後半にへ鬼ごっここの鬼からかい唄や鬼決め唄、蝶の唄やとんぼ捕り唄、草履かくし唄など、年長の子どもたちがうたうわらべうたまで取り込まれていて、いわば蛇足ともいえる部分を

釜、茶碗などの結構な道具やりっぱな小袖などが置かれており、しめたと思う束の間、寝ている赤ん坊が目覚めます。赤ん坊が手を動かして抱かれない様子に、つい抱きあげて「よい子、よい子」とあやす。赤ん坊に気を取られていろいろ遊ぶうちに乳母が戻ってきてその異様な様を見つけ大声で家人を呼び大騒ぎとなり、盗人と対決する。盗人は「盗人ではないぞ。座敷の見物に参った。」などと言いながら何も盗らずに逃げてゆく。

〔和泉流の原典からあそび唄の部分〕

「扱（さて）もくよい子ぢや。」

「かぶりくくく。」「扱もく、振頭（かぶり）がなるは。」

「しほのめくく。」

「肩に乗せましよ。向ひ殿のえのころは、未（ま）だ目があかぬころくく。」

「さらば、ちつと笑はしましよ。やあ、くつくく。」

和泉流「子盗人」『続狂言記』元禄十三年（1700）より

〔大蔵流の原典からあそび唄の部分〕

「扱もくこなたは能（よい）子じや。」

「何ぞ芸はないか。てうちくくく。」

「笑らひて「もうないか。かぶりくくく。」

「ちとすかしませう。こそくくく。」

「や、いとし子で御座るを、誰（た）が又泣（なか）いた。鮎（いたち）が来るによ、な、いそやくく。」

「最早何も芸は無か。や、何じや、合てんくくく。」

「もう無いか。にぎくくくく。」

「ちとこそぐりませう。こそくくくく。」

「今度は肩車に乗（のせ）てすかしませう。」

子を肩に乗せて「ハア、いとし殿御を肩に乗せて、のせて乗せて御所へ参らうく。」

大蔵流「子盗人」 大蔵虎寛本『能狂言』寛政四年（1792）より

鬼の養子(鬼の継子)
『続狂言記』巻之三より



鬼の継子(鬼の養子)

「あらすじ」 一人の女が赤ん坊を連れて山一つ越えた親里に里帰りに出かける。日暮れ近くなりさびしい山道を行くほどに、鬼が出る。鬼は女や赤ん坊を「食おう」という。「たとえ自分は食われても子どもは助けてくれ」と女は懇願する。鬼が「それならばおれの女房になれ」と言うので、「夫のある身では」と言ってなお助けを乞うがきかぬ。女は赤ん坊の命には代えられないと、仕方なくしたがう。ところが、鬼が喜んで赤ん坊を抱き、子に気を取られてあれこれと遊び始める。女はやがて隙をみて子を取り返し逃げていく。

〔大蔵流原典から遊びの部分〕

「扱もく愛らしい子かな。此恐ろしい某(それがし)がつらを見て、おどろきもせず、にくくと笑ふてゐる。扱何ぞ芸は無いか。」

「かぶりく。」 「てうちく。」

「がてんく。」 「にぎく。」

「子を肩へのせて、鬼の継子を肩にのせて、のせてく、蓬萊の島へ参らうく。」

大蔵流「鬼の継子」大蔵虎寛本『能狂言』寛政四年(1792)より

○かぶり かぶり。(和泉流・大蔵流「子盗人」、鷺流「養老水」、大蔵流「鬼の継子」)

↓首振りあそび(頭を横に振る)

○しおのめ しおのめ。(和泉流「子盗人」)

↓表情あそび(目を細める)

○ちようち ちようち。(大蔵流「薬水」、大蔵流「子盗人」・「鬼の継子」)

↓手あそび(手を打つ)

○あわわ。(大蔵流「薬水」、鷺流「養老水」)

↓口あそび(口に手をあてアワワという)

○トトノ目ヤ トトノ目。(鷺流「養老水」)

↓指あそび(てのひらをもう一方の人差指でつつく)

○めめらこや めめらこや。(大蔵流「薬水」) 右に同じ

○ツムリテンテン。(鷺流「養老水」)

↓手あそび(両手で頭をかるくたたく)

○ひじほつほほ、ほうほほ。(大蔵流「薬水」)

↓手あそび(左ひじを右のてのひらでたたく)

注) 能・狂言の鼓を打つしぐさをまねたもの。

○いとし子で御座るを、誰(た)が又泣かいた。鼬(いたち)が来るによ、なないそやなないそや。(大蔵流「子盗人」)

注) 「いとし子で御座るを」古い子守唄。歌意は、「可愛い子を誰が泣かしたの。泣くとイタチがくるからね、泣かないで、泣かないで。」

○子を肩に乗せて、いとし殿御を肩に乗せて、のせて乗せて、御所へ参ろう、御所へ参ろう。(大蔵流「子盗人」)

○子を肩へのせて、鬼の継子を肩にのせて、のせてのせて、蓬萊の島へ参ろう、蓬萊の島へ参ろう。(大蔵流「鬼の継子」)

↓体あそび(幼児を片方の肩に乗せて歩く。古い稚児参りの遺風。)

○肩に乗せましょ。向い殿のえのころは、未(ま)だ目があかぬ。ころころ。(和泉流「子盗人」)

注) 「えのころ」は犬の子。子犬のわらべうたの子守唄化。



にぎにぎ ちよちよち あわわ
かいぐりかいぐり とつどのめ
静斎英一画『幼稚遊昔雛形』より

狂言三種から赤ちゃんあそびのまとめ

以上、十七・八世紀の狂言写本、大蔵流「薬水」と鷺流「養老水」、和泉流と大蔵流の「子盗人」、大蔵流「鬼の継子」からの赤ちゃんあそびをテーマとするあらすじと原典からの歌詞部分を紹介した。これらを総合すると、当時の赤ちゃんあそびのほぼ全貌が浮かびあがってくる。次にそれらを種類別に、また現代表記に改めてまとめてみよう。

○にぎにぎ にぎにぎ。(大蔵流「子盗人」・「鬼の継子」)

↓指あそび(にぎにぎ)

○ちどこぞぐりましよう。こそこそ こそこそ。(大蔵流「子盗人」)

↓体あそび(くすぐる)

○ちつと笑わしましょ。くつくつく。(和泉流「子盗人」)

↓表情あそび(顔あそび)

○がつてん がつてん。(大蔵流「子盗人」・「鬼の継子」)

↓首振りあそび(頭を縦に振る)

へ年長の子どものわらべうたへ

鬼ノコヌマニ大豆ヒラウテ食(クラ)フヨく。

鬼ノ留守ニ洗濯セウヨく。

鬼ノ皿ハ一皿(ヒトサラ)ニ(フタ)皿三(ミ)皿四(ヨ)皿九(コ)皿十(ト)皿。

蝶々トマレ。

蜻蜓(ヤンマ)返せ、蜻蜓(トンホ)トマレ。

足ノ涼(ツメタイ)ニ草履買(カフ)テ給(タモ)レく。

(鷺流狂言「養老水」)

これらの狂言におけるさまざまの赤ちゃんあそびを見て、そのあまりの豊かさに、またあまりに現代との違いのなさにほんとうに驚かされる。能や狂言が中世、室町時代に成立した芸能であることを考えると、これらの赤ちゃんあそびが、もう五、六百年も前の話だということに改めて驚かざるを得ない。それだけに、これらの赤ちゃん芸は、とてもない年月を経てひろく日本人の子育てに定着し、しっかりと伝承されて来た歴史の深いものである。なほ、末尾に列挙した年長の子どものわらべうたについては、次号にまわして取り上げたい。

〔出典〕

『狂言全集』明治四三年(一九一〇)国民文庫刊行会刊より。

「狂言記」「続狂言記」「狂言記拾遺」元禄期(二六八―七〇三)刊、「狂言記外篇」元禄三年(七〇〇)刊。(以上和泉流、「狂言記補遺」(鷺流)。

『大蔵虎寛本 能狂言』寛政四年(七九二)成、笹野堅校訂、昭和十七年(一九四二)岩波書店刊。

『狂言歌謡研究集成』池田廣司著、平成四年(一九九二)風間書房刊。

『近世風俗図巻』3 昭和四九年(一九七四)毎日新聞社刊。「能狂言絵巻」画者年代不詳。

連載 07

子ども虐待は、今

「埼玉県虐待禁止条例」

改正案の波紋

子どもの虹情報研修センター 川崎 二三彦

自治体による虐待防止条例

2000年に児童虐待防止法が制定されてから20余年、都道府県や市町村では、それに加えて、「子どもを虐待から守る条例」だとか、「子どもの権利を尊重し虐待から守る社会づくり条例」「子どもの生命と権利を県民全体で守る条例」「子育て家庭を社会全体で支え、子どもを虐待から守る条例」などの名称で独自の条例を作っており、今では全国約50か所で制定されている。これらの中には、児童虐待に限らず、いじめやDVの防止を含めたり、高齢者や障害者の虐待防止を謳っているものがあり、「埼玉県虐待禁止条例」も、児童、高齢者及び障害者に対する虐待の禁止並びに虐待の予防等について定めている。この条例が、「躍社会」の注目を集めたのは、2023年10月、県議会最大会派の自民党議員団が改正案を提出したことによる。

条例改正案の提出と取り下げ

波紋を呼んだのは、「当該児童を住居その他の場所に残したまま外出することその他の放置をしてはならない」という新たな規定だ。よく読むと、小学3年生以下の子どもについては「放置の禁止」を義務づけ、6年生までは、放置しないよう努力することを求めている。では、一体何をもって「放置」というのか。

「子どもたちだけで公園などで遊ぶこと」

「子どもたちだけでの登下校」

「子どもたちだけの自宅での留守番」

「子どもだけ家に残してゴミ捨てに行く行為」

こんな例が示されると、一斉に批判の火の手があがった。

「預け先がない親をさらに追い詰める」

「ワンオペでやむをえず留守番させなくてはいけない親の負担が増す」

「共働きの親としてはずっと子どもに付き添

えません」

「下の子の幼稚園のお迎えに、上の子はいちいちついて来ません」

「子どもの受け皿となる対策が整わないまま、禁止だけするのはおかしい」

批判は個人レベルにとどまらない。さいたま市PTA協議会は、「ほとんどの保護者が条例違反に当てはまる」本改正案が可決成立した際には、今まで信頼を築いてきた近隣住民からの通報におびえ、仕事への復帰や、社会参画への意欲が削がれてしまいます」として多数の反対署名を集め、本改正案は、提出からわずか1週間であえなく取り下げられたのであった。

「はじめてのおすばん」

こうした一連の動向を、実は私は既視感を持って見ていた。10数年前に発刊した拙著『児童虐待「現場からの提言」を繙いてみよう」。

本棚の隅から引つ張り出したのは、絵本『はじめてのおすばん』。3歳の女児みほちゃんが、ひとりで留守番し、郵便配達員、新聞の集金人らの来訪に怯えながら、けなげに母の帰りを待つ姿を描いており、我が家でも子どもにも人気で、よく読み聞かせていた。

「珍しい本を持ち出して、どうしたの？」

「いや、ひよっとしたらこれはネグレクト推奨絵本かもしれないと思ってな……」

途端に妻の顔色が変わった。

「誰がそんなことを言ってるの？」

「いや、別に誰も……。ちよっと自分で考えてみただけや……」

「そんなこと言うんだったら、うちでも虐待してたよ。熱が出た時、『一人で寝てるのよ』って小学校を休ませたことなんて、いくらでもある。あなたは『忙しい』と言ってさっさと出かけるやる。私だって仕事の都合がつかない時はある。子どもも図書館から本をいっぱい借りておとなしく読んでいたじゃない」

「……」

返す言葉がなかったが、この絵本の編集者も同意見であった。思い切って、こんな夫婦のやりとりを出版社にメールで送ってみたところ、それに対して、ていねいな返信が戻ってきたのである。

「私は『はじめてのおすばん』の実務を担当した者ですが、この絵本を『ネグレクト推奨絵

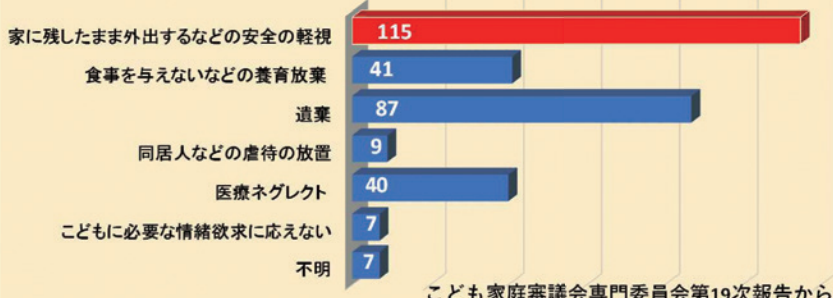


本かも」とおっしゃられて、とても驚いております。自分自身、子どもを育てながら仕事を続けてきた者のひとりとして奥様の反応に心から共感し、そこに答えの半ばが出ているように思いました。現状では、子どもだけを置いて出かけるをえない場合があるのは事実です。それを「虐待」と言われてしまったら、どこの親も立つ瀬がなくなり、子育てができなくなってしまうのではないのでしょうか」

ネグレクトによる死亡

埼玉県の条例改正案をめぐる議論、というより親が全責任を負って必死に子育てせざるを得ない状況は、我が家の子育てしていた1980年代と何ら変わらないうことだろう。ただし、国が公表した児童虐待による死亡の実情を見ると、ネグレクトが全体の約3割を占め、なかでも「家に残したまま外出する、車中に置き去りにする」など子どもの健康・安全への配慮を怠る「行為が最も多くなっている（下図）。本報告には、具体例として、3歳男児が3階の部屋の窓のそばに積まれた布団によじ登って転落死した事

ネグレクトによる死亡の死因(第5次～18次、複数回答)



誰が虐待したのか

では、一体誰が虐待、ネグレクトをしたのか。精神科医の鷲山拓男氏は、次のように述べる（『虐待予防は母子保健から』指導ではなく支援』から）。

「ネグレクトというとき、ネグレクトしているのは母親であると暗黙の内に私たちは想定していないでしょうか」親たちの養育能力が低かったとしても、地域社会が適切な支援を行っていれば子どもにとってネグレクト環境ではありません。ネグレクトの本質とは『社会によるネグレクト』です」

私たちがまず考えるべきは、子育てする親の苦勞に寄り添い、事情を汲んだ細やかな支援策を充実することではないだろうか。

この国つぶしてはならないよね ジジババだつて一言いいたいよ

コメを見直せ

山ふね(山形県)

今は田舎を離れて、まあ、寒い暑いのと心配しないで暮らしているけど、仏壇の仏様みたいであまり居心地よくないよ。人間働いていて寒い暑いを感じている時が一番いいねえ、人様の役に立っているとかあってね。ずっと最近まで山形、家は農家、で今はやっていない。

戦後は子供でね、百姓も都会から買い出しに来る人であふれていた。小分けにできる袋いっぱい作って、あちこちかくして運んでいた。当時、コメは「銀シャリ」最高の誉め言葉が課せられていた。それがあつという間にそのコメが悪者になってしまった。コメは日本の根幹でしょうが敗戦と同時に、パンの国アメリカに負けて、ひどい扱い。

パンを食べれば小顔、長身、色白になると。コメを食べると頭は悪くなる、病気になる、しまいには食料はよそから持ってくればいいと。頼みの国までが減反政策とか、コメ作らなければ金やる、田んぼ売れば金やるって。戦争が終わって農家がほつとした時期にですよ。

農家も悪い。おいしいコメ作って食べさせたいという気持ちもなくしてしまっている。ずっと勝った方のやり方が正しいってどこまであほか。農耕民族の誇りもないね。

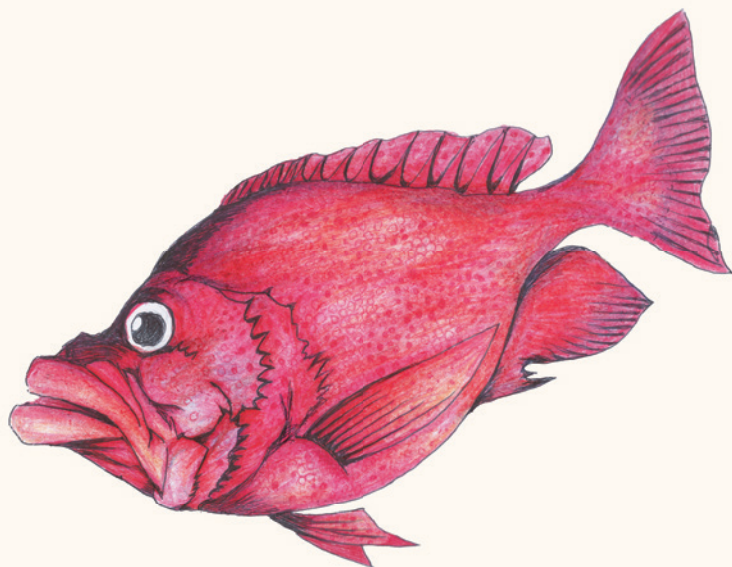
今は息子の厄介になっているけど、朝はパン、バター付けて牛乳とハムエッグ。でも、コメのできない日本は食糧難になったら真っ先に困るね。自給力ないのに高い食料売りつけられたらどうするんだらう。田んぼはいったん休んだらすぐ復活なんてできないのに。

今の子は食料有り余っている時の子どもでしょう。がつがつしない代わりに困ったらずまずパニクルね。コメに復讐されるよ。

家庭がない

金山愛子(石川県)

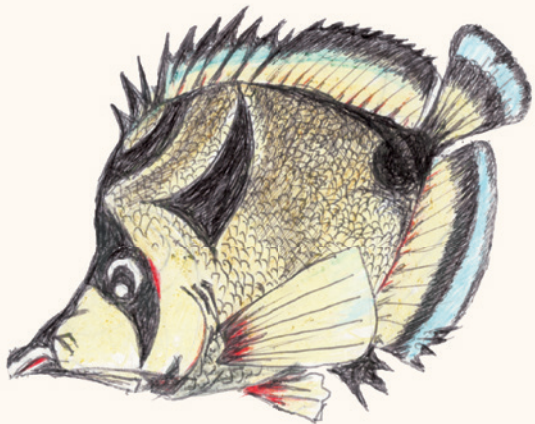
女たちの話題が太るとか、便秘するとか、どこかに何が売っているとか、美容がどうか、あさましと思う。家っていう「家庭」その中心に女がいた時代の方が賢い人が多かった。旦那さんも立てたし、老人も控えめに物知りだったし、家その



ものも独自性を持っていた。

「家庭の中心は何と言っても「食」健康に結びついている。心身ともに健康である司令塔が母親だった。母親がいい食生活を考えなければ、子はそれを真似していい子に育たない。

確かに日本食はインスタントという訳にはいかないけれど、そこはくらい忙しいといっても、愛情があれば一番料理に時間かけるでしょう。今は自分を可愛がることを優先していて、その「エゴ」が時代だと思っている。家庭がないのに結婚しても仕方ない。離婚が多いのは「食」がないからだと思えます。



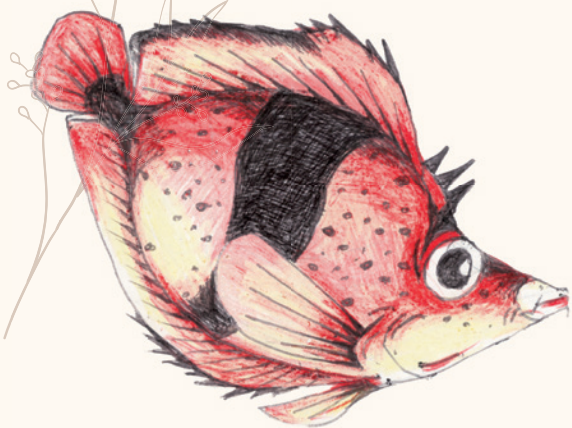
教育ってなあに？

佐久間ゆりえ

教育って今は「今日行くところ」だって。教育、抜本的に直さないよね。

教育は一人一人の子供によって違うでしょう。みんな大谷や藤井さんになれる訳はないのに、そろって天才に育てようとしている親に教育する資格はありませんよ。

運動が苦手な子にバット持たせて野球させるなんて無理、体を動かすことが好きな子に将棋盤に向かわせるのも愚の骨頂。そんなこと一番知っているのは親なのに、力不足だから塾や習い事に精を出させ、子供を痛めてしまう。「好きにさせる」という度量も覚悟もない。かわいそうだなあ、と思いますね。あぐく、学校のせいしたり、担任のせいしたり、国のせいしたり、とあぐり。



一から万までわが人生訓

山野康克子(自由業)

- 一は一日一度は活字や絵、何でも心でみたり感じたりする
- 十は一日十回大声で笑う
- 百は一日百回大きく深呼吸する
- 千は一日千字の読み書きをする
- 万は一日一万歩歩くことを目的とする

時代を変えろ

奥田光男(柳橋在住)

- 政治の世襲撤廃
- 政治家の悪行は即退職法を作れ
- 大学は社会貢献実地体験をしなければ卒業させない
- 母親は子供三歳までは家で育てろ
- 男は化粧するな
- テレビは愚劣なので見ない
- 女がもつとしつかりして、デモや添加物、購買物のチェックに真剣になれ
- 老人は甘えるな
- 医療は人間を実験のようにして無駄に生かすな
- そのくらのことやってよ
- 恋も結婚も真剣にしろよ
- 老人は欲たけるな

堀田一心さんの魚

このページの挿絵は川越の堀田一心さんの作品です。魚屋さんの堀田さんはずっと以前から「さかなちゃん」でした。当協会にもたびたび絵を提供してくださいました。その堀田さんは昨春秋にお亡くなりになりました。今頃どんな海を魚と一緒に泳いでいるのでしょうか。ご冥福をお祈りいたします。

第7回 「優女(やしよめ)」「(京都市)」

今年(二〇二三年)八月下旬、京都市右京区鳴滝にある順興寺を訪ねました。京都駅からJRバスの高雄・周山方面に乗って約五〇分、京都市街地の北西部、御室仁和寺の前を通り過ぎて二つ目のバス停「三宝寺」で下車して、進行方向に少し歩くと、車道の右側に「浄土真宗本願寺派龍華山南殿 順興寺」と記した縦長の大きな看板が見えてきます。その傍らに設置された掲示板に、「蓮如上人子守歌『やしよめ(優女)』と順興寺」と題した説明書がありました。

「本願寺第八代蓮如上人は、明応八年(一四九九年)に山科本願寺で往生したが、前年に末子実従が誕生した。蓮如上人は晩年になって生まれた実従(順興寺初代住職)を可愛がり、子守歌を作り歌って聞かせた。当寺に伝わる『やしよめ(優女)』である。(後略)」

この掲示板から脇道をしばらく登っていくと、右手に順興寺山門があります。傾斜地を活用した半地下のお堂をはじめ、緑に囲まれた瀟洒な佇まいを見せていました。この日は幸いにも強い陽射しを防ぐ雲が広がっていて、ツクツクボウシの蟬時雨が降り注いでいました。境内に屹立する蓮如上人御像が、上人ゆかりの寺院であることを示しています。

順興寺の公式HPには、寺の歴史について以下の通り記されています。

——順興寺は延徳元年(一四八九年)、浄土真宗本願寺第八世蓮如(れんによ)上人を開基として枚方に創建され、蓮如上人の第二子実従兼智(じつじゅうけんち)法印大僧都が初代住職となりました。実従上人は、能登七尾城の出城の一つ、西谷内城主畠山政榮の娘蓮能尼を母とし、明応七年(一四九八年)に大阪御坊(後の石山本願寺)で生まれました。時に蓮如上人八四歳の時の末子です。(中略)

一方、実従上人は学問をよくし『私心記』の著者としても知られ、後奈良天皇にご進講の功により、八町四面の勅免地と二五〇石の寺領を賜わって『勅願寺』と定められました。実従上人は本願寺にあっては御影堂

優女 優女

京の町の 優女

売つたるものを 見しよめ

金襴緞子 綾や 緋縮緬

どんどん縮緬 どん縮緬

(旧京都市域、伝承 川賀世子『明治四四年生れ』、採譜 高橋美智子、出典 尾原昭夫『日本子守唄集成』184頁)

「優女」：美しい気の優しい女。ここでは物売りの女。「金襴」：紋織物の一種で、緯糸に金糸を用いて模様を織り出したもの。「緞子」：経糸と緯糸を別色にして模様を表した絹織物。「綾」：経糸に緯糸を斜めにかけて模様を織り出した絹織物。「緋縮緬」：緋色(赤)の糸を用いた絹織物で、布面に細かいしわがある(以上、尾原前掲書より)。

「しよめ」「どん」「ちりめん」といった音声が反復されて、心地よいリズムを生んでいます。これは眠らせるためではなく、あやし遊ばせるための唄かもしれません。

ここに紹介した旋律は、京都の子守唄・わらべうた研究の第一人者として長年にわたって活躍した高橋美智子の採譜で、一九一一(明治四四)年生まれの方が歌ったもので、「レ・ミ・フアラシ」という都節音階を基調とした、文字通りみやび(雅)な美しさを湛えています。ただし、都節音階の成立は江戸時代初期(一七世紀)と言われているので、一五世紀末に歌われた頃の旋律は、これとは若干異なるかもしれません。

ところで、この唄のルーツは中世の「千秋万歳(せんず/せんじゅ/せんしゅうまんざい)」にあるという説が、前掲の順興寺HPに書かれています。——この子守唄と称されているものの前半は、



の鍵役という重職を務め、それが代々順興寺の職掌となりました。また、院家にも指定され、南殿の称号もそのおり賜わったものです。しかし、天正元年(一五七三年)、織田信長のため、兵火によって全てを焼失しました。(中略)

その後、順興寺は、京都二条堀川に再興されましたが、堀川丸太町に移転し、天明八年(一七八八年)の大火によって再び本堂を焼失しました。その後、昭和四九年三月、現在の鳴滝の地に移転新築されました。——(<http://jyunko-ji.com/> 二〇二三年九月五日検索)

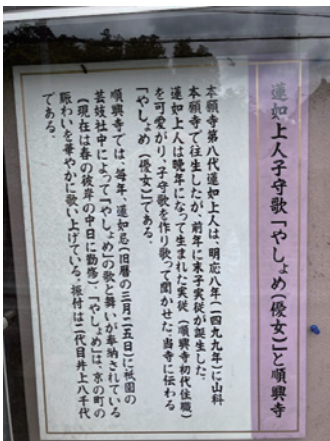


蓮如上人には二十七人も子どもがいて、末子・実従を儲けたのは八四歳の時だったというのです。連れ合いが何人いたのかは知りませんが、宗教的な背景はさておき、「あつばねな生涯」だと思わずにいられません。そして、この末っ子のために作って歌ったのが子守唄「優女」だというエピソードも微笑ましいです。

京の町における物売りの品目、様態、売り言葉の列挙であり、後半は遊女と客の交渉が展開されていて、蓮如書留の「京の町」とも呼ぶべき内容です。「ヤシヨメヤシヨウメ 京ノ町ニヤシヨウメ ウツタルモノヲミシヨウメ」と始まりますが、それは中世の千秋万歳が歌った曲目の一つの「京の町」そのものです。禁中では正月の初めに万歳が参入し「京の町」を演じたことが知られています。蓮如上人の存命中に千秋万歳が本願寺で演じられたという記録はありませんが、色々な芸能者が本願寺にも来て演じたことが考えられ、上人が書留、愛誦した「京の町」がわずか一年ばかりの末子実従との生活の中で「子守唄」として伝承されたとも考えられています。実従上人の書き残された『私心記』の中には、本願寺で千秋万歳が演じられたことが二度記録されています。——(<http://jyunko-ji.com/>)

「千秋万歳」とは、中世(一二世紀・一六世紀)の民俗芸能、大道芸、門付芸の一種です。新春の予祝芸能として二人一組で行う芸で、扇を持って舞う者と鼓で拍子をとる者がいました。その演目の中で「優女」の元になる唄が歌われており、これを耳に留めた蓮如上人がわが幼子に歌って聞かせたのではという解釈です。

他の子守唄にも、様々なジャンルの歌謡や芸能と結びついてる例はしばしば見られますが、それが中世まで遡れるところに、京都ならではの納得させられます。





講演は日曜日が
多いのですが、「ふ

に移ってからは普通
の下駄でした。そし
ていつも私たちが玄
関で迎えてくれたも
のです。

御内儀さんは細身のからだを和服に包み、高下駄を履いて、カタカタと音を立てて店内を歩き、なんとも粹な感じでしたが、新富士駅の傍

土鍋に大根おろしを満たし、その中に正方形に切った豆腐を入れて火にかけます。熱で大根おろしが溶けて鍋の中が透明になり、豆腐が踊り出したのを酢醤油につけて食べるのです。

「雪鍋」と称していた料理です。

「ふじ万」さんの料理はご主人の手製ですが、これもまた天下一品なのです。当時は私自身、日本一と豪語していたほどです。なかでも、大好きだったのは一般的には雪鍋、「ふじ万」さんでは「雪鍋」と称していた料理です。

て、すっかり馴染みになっていたのです。

今回はイギリスの代表的小説家であるチャールズ・ディケンズの「二都物語」にあやかって、「二者物語」といきたいと思います。二者とは一人はお医者さん、もう一人は新聞記者さんのことで、いずれも私の人生に多大な彩りを添えて下さったお二人です。

まずはお医者さん。私より30歳も若い内科医さんで、現在は富士山麓の朝霧高原で、朝霧高原診療所を経営しています。さらに日月俱樂部という滞在型ホリスティック/セミナーハウスを併せて運営しているところが、その特色といつてよいでしょう。

つまり、私とはホリスティック医学を通じての仲間なのです。因みにホリスティック医学とは体・心・命が一体となった人間丸ごとをそっくりそのまま対象とする医学で、がんという病気は体だけの病ではなく、心にも命にも深くかかわった病であると考え、私たちがすでに30年以上追求して来ている分野です。

一方、アメリカにおける統合医学のオピニオンリーダーであるアンドルウ・ワイル博士がアリ

増刊

帯津良一

英気を養う「二者物語」



ゾナ州立大学で「統合医学プログラム」を主宰していました。因みに統合医学とは西洋医学と代替療法を統合することでホリスティック医学と同じではありませんが重なるところがあり、しばしばまとめて論じられています。

そのワイル博士は何回か日本ホリスティック医学協会で講演をしたりセミナーを開いていましたので、私とは面識がありました。そこで、医師になってからも多くの頃、朝霧高原のY医師がアリゾナ州立大学のワイル博士のプログラムに参加することになり、ワイル博士への推薦文を私が書いたのが、ご縁の始まりでした。

もう一人のK記者さんは静岡新聞の記者さんで、私が磐田市で講演をした際、取材グループの一員として同席していたのです。それがどういう風の吹きまわしか、彼の車で私を新幹線の掛



じ万」さんは日曜日は定休日なのです。それなのに私が行くとなると特別にお店を開けてくれるのです。できるだけ大勢で伺いたくなります。そこで、はるばる朝霧高原からY先生が参加するようになったというわけです。しかし仕事柄診療所を空けることができない場合が多あります。その場合は代わりに奥様がやって来るのです。この奥さんがなかなかの美人なのです。どうしても奥さんのほうを歓迎したくなります。それをY先生も感じとったのでしょう。お二人揃ってお見えになることが多くなったのです。

何年くらい続いたのか、じつに好い会でした。そのあとKさんがカルチャーセンターを去ってからは「ふじ万」さんを舞台にした集まりは終りましたが、三人の交友関係はそれなりに続いています。仕事柄、Kさんも私も時々「日月倶楽部」を訪れますし、Kさんとは別のグループで、毎年大晦日には柴又の帝釈天を御参りしたあと浅草の雷門の近くで一杯というのが年中行事になっています。

そして、この度、Y先生の奥さんが朝霧高原で居酒屋「ビストロ」を開店したのです。一瞬おどろきましたが、次のような経緯を伺えば納得できるというものです。じつは朝霧高原にたった一軒あった居酒屋さんが閉店したのです。まもなく高原のあちこちで音を上げる人が出て来ました。この居酒屋さんを掛け替えのない憩いの場としていた人もいれば、定期的な集会の場としていた団体の人もいるからです。その音を上げた人々の代表の方がY先生に

川駅まで送ることになったのです。その短い車中で、あつという間に打ち解けて旧知の間柄のようになり、駅前の中華料理店で共に昼食ということになったのです。

その2、3日後に受け取った礼状に、なんと、「まるで飼主に会ったようでした」とあるのはおどろきました。それから旧知の間柄のお付き合いを経て、やがて論説委員を最後に定年退職した彼は同じ新聞社のカルチャーセンターに身を寄せます。そのおかげで、カルチャーセンターから依頼された講演のために、しばしば静岡県を訪れることになりました。

ほとんどが静岡市で、浜松市や富士市が時に加わります。そして講演のあとは新幹線の新富士駅の近くの割烹料理店「ふじ万」さんを、かならずと言っていいほど訪れます。じつは医局からの派遣で、静岡県の蒲原町にある共立蒲原総合病院に最初は1963年4月からの1年間、次は1970年頃の2年間、勤務していたことがあるのです。あとの2年間は、当時まだ富士市の中心街にあった「ふじ万」さんを始終訪れ

新たな居酒屋さんの開業をお願いに来たのです。地域のためとはいえ、さすがのY先生も決めかねていたところ、奥さんが「私がやりましよう」と名乗り出たというのです。これを聞いたとき、あの奥さんならば好いお店になるだろうと直観しました。

そして、この度、Kさんと二人、新しい居酒屋さんに招待されたのです。なつかしき新富士駅で落ち合って二人してタクシードで出かけました。荒涼とした高原の風景のなかにカラフルな居酒屋さんを観て、なんともほのぼのとした気持ちになったものです。店内に入って、カウンターや食器棚の佇まいも好い上に、店主然として笑顔で迎えてくれたY先生。軽装でにこやかに動き回る奥さん。てきぱきと働く仲居さん役の看護師さんたちに居酒屋の場のエネルギーの高さを感じたものです。帰路はまた新富士駅内のお店で、白州のハイボールと生しらすで英気を養ったものでした。

帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

直島便り
②4

皆で守る島の祭り



南無庵 庵主 山根 光惠
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

2023年9月のこと、夕方になるとどこからともなく、太鼓の音が聞こえてくるようになった。何の音だろう？と記憶をたどれば、どうやらその太鼓の音は、昔から毎年いつも行なわれている、直島の祭りの音だ。コロナ禍になって、お祭りはずっと中止が続いていたから、すっかり忘れていた。

今年の秋は、どこか様子が違う。日本国中のあちこちで4年ぶりにお祭りなどのイベントが再開されるといふニュースを多く聞くようになり、それはここ直島でも同様らしい。

島のお祭りは10月中の週末に神社を三回変えて行われる。宮浦地区の住吉神社、積浦地区の崇徳天皇神社、そして最後の仕上げが本村地区の八幡神社。

この三つの神社の秋祭りが今年は例年通り、昔のままに行われるそうで、聞こえてきたのは、そのための太鼓の練習の音だったのだ。地区の大人も子どももうきうきしている、そんな気持ちで太鼓の音からも伝わってくる。

太鼓を叩くのは小中学生の男の子。本番では顔

「島根の民謡・労作歌」

酒井薰美 著

島根、山陰の口承文芸の収集や採譜をしていらつしやる酒井薫美（さかいただよし）さんの最新作が送られてまいりました。今は聞かれなくなった労作歌やわらべ歌の数々がQRコードで聞かれるようになっていきます。

福本隆男さんのイラストが本当に素朴で可愛らしく、自然に笑顔が浮かびます。

永久保存版
今井出版 2,200円(税込)



人材急募

当協会事務局の人材を募集します。
子守唄の大切さや重要性を訴え活動し、
当協会も今年で23年目を迎えました。時代と共にその活動
内容も大きく広がりを見せています。チラシの作成、季刊
誌の編集、助成金の申請など、パソコンを使用した事務作
業だけでなく、「女性村 ねぎぼうずプロジェクト」の企画・
運営など、多岐に渡ります。



決して楽な仕事ではありませんが、未来に可能性と夢のある活動だと信じています。

ご興味のある方はぜひ当協会までお気軽にご連絡くださいませ。

活動報告

■配食(毎月第二・第四木曜日)
特別企画..お米、野菜(10月30日)、

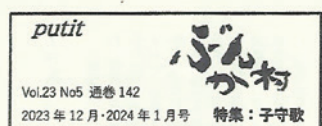
りんご(11月30日)の配布

日本子守唄協会がシングルマザーや貧困でお困りの方々に配食のお手伝いをさせていただいてから、早いもので三年が経ちます。子どもを抱え本当に困っている時、どうにも行き詰った時、せめて子ども達が食べること、事欠かないよう、手を差し伸べたいと思ったことがきっかけです。

「あなたが自立するまでの応援よ」と私は必ず皆さんにそう言います。「おかげさまで助かりました」と卒業されていく方もたくさんいらっしゃいます。一生懸命資格を取った方も、東京を離れた方もいらっしゃいます。

女性達はそんなにやわではないと私は信じています。自分なりの自立の道を必死で

■ぶんか村に掲載されました。



ぶんか村エッセイ 132
子守唄と松永伍一先生
西館好子(NPO 法人日本子守唄協会理事長)

松永伍一という字で知られ、
ればたいてい詩人か小説家な
れは、私は日本字で頭固い人
という固体を立ち上げること
はなかろう。

どんな時母を第一に敬生
させ、誰にしか神のよみに
上標とあがける姿に疑問がな
く、それがけじめになる。

が、その敬慕の思いが松永先
生のテーマなり、「子承順」
の研究では第一人者となった
私は松永先生の問をにこい
だにたくなるまで、ご指導を
いただいた。

年々増える通信や少年犯罪

世の中安穩、身体健全：諸々の願いが、この長い石段を上がって届けられてきたのだらう。

さて、お祭りは、お天気にも恵まれ無事に終わることができた。コロナも一

応は収束を迎えたので、観光客の参加も多かった。また、直島は阪神フアンが圧倒的に多く、この年は38年ぶりに日本一になったというおめでたい年だったのだ。住吉神社、崇徳天皇神社では、上着は柔道着、ズボンは阪神のピンストライプのユニホームという姿のお父さんたちが屋台を担ぐ姿も印象的だった。

祭りがすべて終わったら、町民会館の直島ホールで、かくし芸大会が夕方からにぎやかに行われる。そしてそれぞれの家で友人知人がおいしい祭り料理を心行くまで楽しんでこの楽しさが、これからもずっとつづいていくようにとねがいをこめて、楽しい夜を過ごす。

こんな小さな島にもやはり祭りはあつて、人々の力で長い年月の間、引き継がれ、守られてきた。コロナ禍でしばらくおあずけとなつたからこそ、今また再開したお祭りを通して、地元の伝統を守る人々の思いや、様々な願い、そしてお祭りの楽しさを、改めて実感する。



八幡神社



祭り料理の鯛そうめん

探し生きていくこと
が、そのまま子ど
も達の自立につな
がると考えています。

「依存はいやよ」とも

自立につながりません。親の姿がそのまま、未来の子とも達の頑張りになることを信じての応援です。もらうのではなく、お互いが助け合うという自覚を持って、いつか自分達も後輩の女性達を応援する側になる、という具合になってほしいのです。卒業された方からその後音沙汰がないのは少し寂しいですが、どこかで前向きに生きていると信じています。

新たに外国からお帰りになった方や仕事を中断された方などがお見えになりました。近くにシングルマザーや貧困でお困りの方がいましたら、お声をかけてぜひ当協会を紹介してください。また、学生さんでお困りの方もいらしてください。お待ちしております。

事務局報告 西舘好子



東京・浅草生まれ。元・創国にまつ座主宰、演劇のプロデュースを手掛ける。1985年、第20回伊国国演劇団体賞を受賞。1995年スポン・ツッポン文化大賞受賞。30年に及ぶ演劇活動、DV、子供の虐待、女性問題への活動などを経て、2000年日本女子守衛協会設立。現在は女性史の一つともいえる女子守衛に取り組んでいる。

